



小学部 国語科 一題材の実践と振り返り

題材名：『マイ絵本を作ろう』で問いに応じたイラストを選んで、絵本を完成させよう

授業者：大谷 保裕

学習指導要領の段階と内容

小学部2段階 A (聞くこと・話すこと)

知・技：ア(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。

思・判・表：ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。

学び：言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。

題材目標

知・技

『マイ絵本を作ろう』で、3つのイラストから絵本の挿絵を選ぶ時、問いの意味の違いがわかり、「●●しているのは誰ですか」や「▲▲さんは何をしていますか」などの問いに応じて正しいイラストを選ぶ

思・判・表

様々なイラストを見て、人や動作の問いに答える時、問いの意味を考え、問いの意味に当てはまる言葉を判断し、登場人物や動作のイラストを選んだり、組み合わせたりする

学び

様々なイラストの人や動作についての問いに対して正しいイラストを選ぶ

授業づくりの手順

前題材までの到達状況から表出像を列挙する

※表出像
思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する児童生徒の姿

列挙した表出像を段階化する

段階化した表出像の一覧から、グループの在籍生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する

指導内容の範囲となった表出像に必要な知識及び技能を列挙する

各児童(生徒)の指導内容(知・技)の習得のために知識及び技能の内容を細分化・段階化する

細分化・段階化した知識及び技能の一覧と題材終了時までの表出像を実態表の項目として、児童(生徒)の実態を把握する

実態把握の結果から、中心として取り上げる知識及び技能を決定する

知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

題材開始

R研で毎時間の授業の評価・改善

題材終了

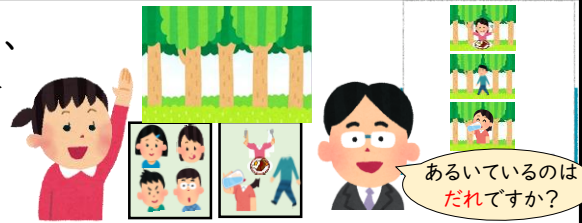
観点別評価の実施

考察

- ・課題を終える度に人や動作のイラストを選択肢のボードに戻す必要があり、学習の成果を残していけなかった。
→振り返りの場面で成果を認めるために、完成した絵本をタブレット端末で撮影し、撮り溜めることで、振り返ることができる。と考える。
- ・絵本のページを1枚ずつ提示していたため、児童が見通しをもつことができずに「しない」と言うことがあった。
→見通しをもつことができるように、課題の数ははじめに伝えたり、視覚的に表したりしておく必要があった。
- ・題材の後半は、オリジナルの絵本に飽きてしまう姿が見られた。
→児童の好きな絵本や写真を扱うことで意欲的に取り組むことができると考える。

教材と仕組み

提示した3つのイラストについて人や動作を問い、問いに答えて、人や動作のイラストを選んだり、組み合わせたりすることで、絵本(3場面のオリジナル絵本)が完成する仕組み。



観点別評価

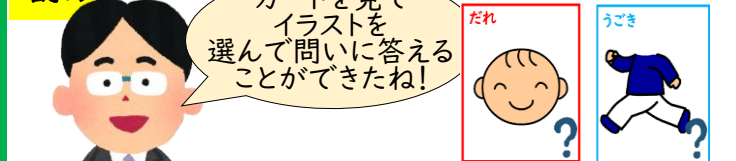
知・技	「●●しているのは誰ですか」や「▲▲さんは何をしていますか」などの問いに応じて正しいイラストを選ぶことができた
思・判・表	様々なイラストを見て、人や動作の問いに答えて、登場人物や動作のイラストを選んだり、組み合わせたりすることができた
主体的な姿	様々なイラストの人や動作についての問いに対して正しいイラストを選ぶ姿が見られた

ポイント 問いの意味の違いに目を向けるために

展開場面



認め



意味づけ



ポイント

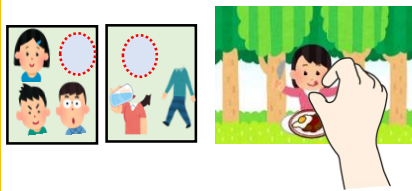
意欲的に取り組むための工夫

オリジナル絵本



友だちや教師、動物が登場するオリジナルの絵本を作成した。問いの難易度や問題配列を変えることができ、子どもの実態に合わせて使用・作成できる。

教具の操作性



顔と動作のイラストを、自分で組み合わせ、操作しながら課題を行うことで、意欲的に取り組むことができるようにした。

他の場面での活用



児童の好きな絵本を用いて、登場人物や動作について問い、学んだことを他の場面でも活用できるようにした。

